

THE ANGELIC CONVERSATION

エンジェリック・カンヴァセーション

Directed by *DEREK JARMAN* Music by *COIL*

監督 || デレク・ジャーマン 音楽 || コイル
キャスト || ホール・レイナルド / フィリップ・ウイリアムソン / ソネット朗読 || ジュディ・デンチ
撮影 || デレク・ジャーマン / フロテューサー || シェームス・マッコイ 製作 || BFI 配給 || アップリンク
35ミリ カラー 78分 1985年 イギリス映画

THE ANGELIC CONVERSATION

光で描く、デレク・ジャーマンのハイネンティングフィルム

イギリス映画界の鬼才、デレク・ジャーマン監督の日本初公開作品が「エンジェリック・カンヴァセーション」だ。

デレク・ジャーマンは、映画監督の他に画家、デザイナーとしても活躍しているアーティスト。彼は、ミュージシャンとの交流も深く、これまでの作品には、ブライアン・イーノ、サイキック・TV、たちがオリジナル音楽を提供している。また、彼が監督したマリヤヌ・フェイスフル、マーク・アモンド、ブライアン・フェリー、ザ・スミスらのプロモーションフィルムは、劇場でも上映され高い評価を得ている。今回の「エンジェリック・カンヴァセーション」では、サイキック・TVから独立した「コイル」が音楽を担当。

「エンジェリック・カンヴァセーション」には、明確なストーリーがあるわけではなく、デレク・ジャーマンのイメージそのものがあるだけなのである。

スクリーンに映し出される映像は、廃墟の窓辺から始まり、岩場、洞窟、泉、炎、庭園、そしてホモセクシャルな男たちといったイメージによって綴られていく。それらに、愛について歌われたシェークスピアのソネットの朗読が重なる。

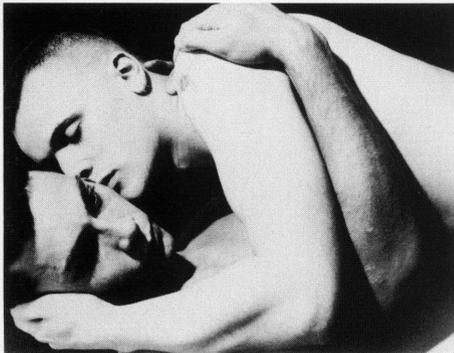
音と映像がこの映画を観る者の感覚にダイレクトに訴えかけ、映画館において今迄にないAVトリップをさせてくれる映画といえる。

この映画の映像効果として最も特徴的な点は、動きが静止画像に分解されたストロボ・スタイルにある。ただ、彼の場合デジタル処理でその効果を出すのではなく、映像の録金術的手法によって行なうのである。まず、モノクロの8ミリで1秒間3コマのペースで撮影。その8ミリをスクリーンにスローモーションで映写し、それを家庭用のビデオで再撮影する。

そして、それを編集し、1インチビデオに変換する。その際、色調整を行ないモノクロの映像に彩色していく。そして、最後に1インチビデオから35ミリフィルムに変換する。以上のようなプロセスを経ることにより、複雑で美しいイメージがフィルムに織り込まれていくのである。

画家でもあるジャーマンは、フィルムとビデオというメディアの絵筆を使い、スクリーンに光の絵画を創りあげているのである。ハイネンティングフィルムとも呼ぶべきこの映画をジャーマンは、「私の最も簡単な作品、そして、私の本質に最も近い作品である」といっている。

キャスト＝ポール・レイナルド／フィリップ・ウィリアムソン
ソネット朗読＝ジュディ・デンチ 監督・撮影＝デレク・ジャーマン
音楽＝コイル プロデューサー＝ジェームス・マッコイ 製作＝BFI 配給＝アップリンク
35ミリ/カラー / 78分/1985年/イギリス映画



デレク・ジャーマン DEREK JARMAN

1942年イギリスで生まれる。ロンドン・キングス・カレッジを卒業後、1963年から4年間、スレイド・スクールにおいて絵画を学ぶ。

1967年、テートギャラリーで催された「ヤング・コンテンポラリー&ジョン・ムア展」に絵画作品を出品する。また、ロイヤルバレエ団でヌレエフの衣装デザイン、コロシウム劇場で上演されたオペラ「ドン・ジョバンニ」の舞台美術などを手掛ける。

1970年、ケン・ラッセル監督の「肉体の悪魔」の美術監督を務める。この頃より、8ミリ作品を自分の表現方法の一つとして作り始める。

1972年、ケン・ラッセル監督の「狂えるメサイア」に美術デザイナーとして参加。

1975年、最初の映画作品「セバスチャン」を監督する。ローマ帝国時代、キリスト教を信仰したため処刑された聖人セバスチャンの物語。全編ラテン語、そして男性のみの出演者で演じられたこの映画は、斬新な映像感覚と、ホモセクシャル描写が、上映各所で話題となる。

1977年、「ジュビリ」を監督。近未来のロンドンを舞台とし、バンクファッションの若者たちが暴行と略奪を繰り返すという世紀末的デカダンスな映画である。アダム・アント、トーヤ・ウィルコックス、エルミーネ・デモラインらミュージシャンの他、「ロッキー・ホラー・ショー」のリチャード・オブライエン、リトル・ネルが出演。

1979年、「テンベスト」を監督。シェークスピアの原作をキッシュでナンセンスな感覚で映画化。前作に続きトーヤが出演、ミランダ役を演じる。

1980年以降、スロッピング・グリッスルが音楽を担当した「イン・ザ・シャドウ・オブ・ザ・サン」など数多くの16ミリ作品を製作。美術方面の活動も続けており、ロンドン・コンテンポラリー・ダンス・カンパニーなどの舞台デザイン、そして、絵画個展を行なう。

1985年、「エンジェリック・カンヴァセーション」を監督。

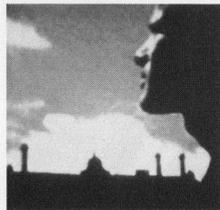
1986年、中世イタリアの画家カラヴァッジョの生涯を描いた「カラヴァッジョ」を監督。

現在、近未来をモチーフにした映画「The Dead Sea」を製作中。この映画も「エンジェリック・カンヴァセーション」と同じく8ミリからビデオ、35ミリへと変換されて作られていく映画で1987年春に完成予定である。

ブックレット「Derek Jarman—The Angelic Conversation」劇場受付にて発売

デレク・ジャーマンロングインタビュー（インタビューア、北折智子）、評論（マイケル・オブレイ、大場正明、赤坂英人）、シェークスピアソネット朗読テキスト、自叙伝「ダンシング・レッジ」「カラヴァッジョ」抄訳、写真多数掲載

B6版、112P、ハードカバー 定価¥1000 発行＝質問舎



Derek Jarman

吉祥寺 バウスシアター

Tel.0422-22-3555

画像心理を追求したバウスシアターの特殊画面!!

2月21日(土)よりロードショー

特別鑑賞券¥1200

(当日、一般¥1500 学生¥1300の処)

チケットぴあ、チケットセゾン、都内各プレイガイドにて発売中。

上映時間/12:45 2:30 4:15 6:00 7:35

特別有料試写会

1月28日(水) 草月ホール

Tel.03-408-1126

前売・¥1200 当日・¥1500

チケットぴあ、チケットセゾンにて発売中

上映時間/4:00 7:00